

▶ 洗浄剤の4つの条件 ◀

- ① 汚れが落ちる
- ② 自然に優しい
- ③ 人体に優しい

ここまではあたりまえ
ここからが違う

④ 油と洗剤の二次汚染防止 《環境保全企業へ》

生分解性97%以上!

エコデ:クリーンの特徴

- 中性で水中のミネラル類との反応性がなため、結晶、析出、残留、固着、白濁などの現象が出ません。
- エコデ:クリーンで分散された油は再付着、固着、凝集等の現象ができません。
- 数倍～数10倍に薄め使用するため、優れた経済性を発揮します。
- 水系なので備蓄の届けは不要。

職場環境の改善と経済性

- 壁、床はサラサラ、工具、機器類はピカピカ。塗装を傷めないで機器類も長持ちします。ウエス、軍手は洗えば何度でも使用でき、作業着は油のシミや汚れもなく気持ちもスッキリ。

自然と人体への安全性

◆ **エコデ:クリーン**

油分を微細化し、洗浄剤共々自然界の常在菌が分解処理してくれます。有害物質（重金属や環境ホルモン等）は一切使用しておりませんので、人体にも極めて優しい洗浄剤です。

本剤には次のような有害物質を含んでおりません。

- ABS（アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム）
- LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム）
- リン酸塩（P205）● 蛍光増白剤 ● ヒ素 ● 重金属 ● その他無機物の一切

何故こんなに汚れ落ちが良く、最付着、固着しないの？

◆ **油の物性を失わせる！**

エコデ:クリーンは油の粒子を細かくし（微細化）、更に微細化した粒子間に水を通し続けることで粒子間距離が広がります。（加水分散）この「微細化」と「加水分散」の2つの作用により、油は本来の物性を失います。

● : 油の粒子 ○ : 界面活性剤

- ① 油の粒子を微細化
- ② 粒子間に水が入る
- ③ 粒子間距離が広がり再結合ができない

どんな所に使えるの？

◆ **エコデ:クリーン（10倍に薄めて使用）**

- 工具、機器の洗浄…雑巾で拭く
- 床…エコデ:クリーンを撒いて、デッキブラシでこする。
- 作業着の洗濯…60リットルの洗濯槽にコップ半分（100cc）を入れ、洗濯。シミのついてる所には、原液を塗りつけて洗う。
- 軍手、ウエスの洗浄…60リットルの洗濯槽コップ半分（100cc）を入れ洗濯。
- SSでの計量機及び周辺の漏油処理。
- 脱脂剤として。

※ 鉱油対象です。

ECO De Clean



流出油対策（例）

- まず、吸着マット等で油の回収作業を行う。
- 必ず水で希釈してから使用する。

- ① 河川等：30～50倍に希釈して、流水箇所へ広範囲に散布する。油紋、油膜が消えれば完了。残っている場合は、数回作業をくりかえす。
- ② 土壌等：回収できずに残った油の2～3倍の量の希釈液をつくる。広範囲に散布後、土壌を掘り返し希釈液と土をよく混ぜ合わせる。その後、倍以上の水を散布する。当日は、1～2時間毎に2～3回する。その後1日1回以上、これを数回繰り返す。
- ③ 路上等：回収出来ない残油の2～3倍の量の希釈液を散布して、ブラシ等でこすり洗いを。その後大量の水でよく洗い流す。

※ 油の流失量、土壌の質によって対応が異なります。
※ 土壌汚染、水質汚濁の防止に効果を発揮します。

油が河川に流出した場合の処理風景



◆ エコデ:クリーン（使用例）

